

1 科目 歴史総合

2 学年 1 学年

3 単元名 現代的な諸課題の形成と展望

4 単元観

本単元は高等学校学習指導要領地理歴史科「歴史総合」の大項目D グローバル化と私たちの(4)に基づき設定した。

(4) 現代的な諸課題の形成と展望

内容のA、B及びC並びにDの(1)から(3)までの学習などを基に、持続可能な社会の実現を視野に入れ、主題を設定し、諸資料を活用し探究する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識を身に付けること。

(ア) 歴史的経緯を踏まえて、現代的な諸課題を理解すること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(イ) 事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、日本とその他の国や地域の動向を比較し相互に関連付けたり、現代的な諸課題を展望したりするなどして、主題について多面的・多角的に考察、構想し、表現すること。

この中項目は、歴史総合のまとめとして位置付けられている。これまでの学習を踏まえ、持続可能な社会の実現を視野に入れ、生徒が自ら主題（テーマ）を設定して、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、主題（テーマ）について多面的・多角的に考察、構想し、現代的な諸課題を理解することをねらいとしている<sup>1</sup>。

また、この中項目の学習は、歴史総合の目標の実現に関わる重要な学習であり、生徒が探究する活動を見据えて、各項目の学習で焦点化を図ったり、探究する活動において既習事項を活用する場面を想定したりするなど、科目全体を見通して計画的に学習を進めることが大切である<sup>2</sup>。よって、この中項目の指導計画の作成に当たっては、探究のための適切な時間を確保するとともに、生徒の主体的な活動を積極的に取り入れる学習形態や指導方法を工夫するなどして、思考力、判断力、表現力等の育成を図ることが求められている<sup>3</sup>。

5 生徒観（想定）

本校は中山間地に所在する1学年1学級の小規模校であり、本学級の生徒は地域内出身者と地域外出身者の割合が概ね1：1の比率となっている。生徒の資質・能力や生活体験・社会経験の多寡、特性の実態は多様であり、学力高位層が2割程度、中位層が6割程度、低位層が2割程度となっている。読解力や表現力、対人関係スキル等に課題を抱える生徒も混在し、教師の個別最適な支援が必要である。

とりわけ、いずれの学力層においても、歴史科目は「暗記科目である」という意識は依然として根強く、歴史的な事象は知識として学習する対象でしかないと認識している生徒が大半を占めている。そのため、現代的な諸課題を自分事として主体的に探究し、持続可能な社会の実現を視野に、その歴史的経緯を理解することの大切さを認識しているとは言い難い。

<sup>1</sup> 高等学校学習指導要領解説地理歴史科編 p. 182

<sup>2</sup> 文部科学省「中等教育資料」令和6年1月号 p. 23

<sup>3</sup> 高等学校学習指導要領解説地理歴史科編 p. 185

## 6 指導観

「歴史総合」のまとめとして、生徒の問題意識を基に、主題（テーマ）の設定から、資料の収集・分析、考察・構想、発表、振り返りまでの探究の過程について、生徒自らが見通しをもつことができるようにする。なお、Dの（4）の学習が充実するように年間指導計画を作成することが求められており<sup>4</sup>、探究のための適切な時間を確保するため、焦点化を図った年間指導計画を作成することが重要である。

※参考 年間指導計画例<sup>5</sup>（A社 歴史総合教科書を例に、分量から割合を算出し時数を配当）

内容のまとめ	所要時数	学習内容・学習活動	A7〇〇 (全199ページ)		
			分量	頁始	頁終
ガイダンス	2				
A 歴史の扉	2	(1)歴史と私たち (2)歴史の特質と資料	5	18	23
B 近代化	2	(1)近代化への問い	3	24	27
	17	(2)結び付く世界と日本の開国 (3)国民国家と明治維新	67	28	95
	2	(4)近代化と現代の諸課題	1	96	97
C 国際秩序の変化や大衆化	2	(1)国際秩序の変化や大衆化への問い	3	98	101
	16	(2)第一次世界大戦と大衆社会 (3)経済危機と第二次世界大戦	59	102	161
	2	(4)国際秩序の変化や大衆化と現代の諸課題	1	162	163
D グローバリ化	2	(1)グローバル化への問い	3	164	167
	8	(2)冷戦と世界経済 (3)世界秩序の変容と日本	27	168	195
	6	<b>(4)現代の諸課題の形成と展望</b> 主題・問い設定 資料の収集・分析、考察・構想 レポート作成等 発表・協議等 振り返り・まとめ	3	196	199
考査	5				
調整(自習・行事等)	6				
合計	72				

まずここを  
しっかり確保！

①どこに、どのくらいの時間を配当するか。(どこをどう取捨選択するか)

②配当時間の中で、どのような主題、学習活動、評価場面を設定するか。

また、生徒が探究の過程で生成A Iを利活用する場合も想定されることから、発達の段階や学習の状況等を含む生徒の実態を踏まえ、ハルシネーションやバイアス等の生成A Iの基本的な仕組みや特徴を生徒に理解させた上で、適正な評価の阻害や不正行為に繋がらないか、生成A Iの出力を基に深い意味理解を促し、思考力を高める使い方になっているかなど、生成A Iに全てを委ねるのではなく自己の判断や考えが重要であることを十分に認識させて適切な利活用を促すことが重要である。(参考 文部科学省「初等中等教育段階における生成A Iの利活用に関するガイドライン (Ver. 2.0)」<sup>6</sup>)

### 【主題（テーマ）の設定と学習上の課題（問い）の表現】<sup>7</sup>

○主題（テーマ）の設定及び学習上の課題（問い）の表現については、生徒がこれまでの学習の振り返りと自らの問題意識に基づいて主題（テーマ）を設定したり、学習上の課題（問い）を表現したりすることができるよう、教師が「あなたはなぜその主題（テーマ）を設定したのか」、「その主題（テーマ）の探究はあなたにとってどのような意味をもつのか」、「それはあなた以外の人々や社会にとって、どのような意味をもつのか」などと発問するなどして、生徒が設定・表現した主題（テーマ）や学習上の課題（問い）の意味や意義について考えることができるよう指導を工夫する。

○学習上の課題（問い）を表現することについて、これまでの歴史総合で学習してきたことを基に、その解や展望について予想（仮説）を立てさせることで、主題（テーマ）に対してど

<sup>4</sup> 高等学校学習指導要領解説地理歴史科編 p. 128

<sup>5</sup> 令和7年度広島県立教育センター専門講座（学びプラス）「110 地理歴史科「歴史総合 内容のまとめりを見通した単元デザイン～「国際秩序の変化や大衆化と私たち」を事例として（高等学校）」 講座資料より。

<sup>6</sup> 文部科学省「初等中等教育段階における生成A Iの利活用に関するガイドライン (Ver. 2.0)」pp. 17～20 ([https://www.mext.go.jp/a\\_menu/other/mext\\_02412.html](https://www.mext.go.jp/a_menu/other/mext_02412.html) 最終アクセス 令和8年2月13日)

<sup>7</sup> 高等学校学習指導要領解説地理歴史科編 p. 183

のような切り口で迫っていくかなどの視点を明確にし、探究の方向性を定めることができるようにする。

- 主題（テーマ）の設定及び学習上の課題（問い）の表現について、生徒の実態に応じて、「主題（テーマ）とその主題を学習上の課題とするための問いの例」（巻末資料）も参考とするなどして、生徒自身が考え、選択・判断し表現できるよう支援する。

#### 【考察・構想】<sup>8</sup>

- 考察、構想に際しては、歴史的経緯を踏まえるとともに、社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、時期や年代、推移に着目し、事象や根拠となる資料を比較したり、相互に関連付けたり、現在とのつながりを見いださせたりして考察・構想するよう指導する。
- 扱った資料の特性を踏まえること、資料を公正に取り扱うことに配慮するよう指導する。（参考 「社会事象等について調べまとめる技能」<sup>9</sup>）

#### 【まとめ・表現】<sup>10</sup>

- 考察、構想したことから得られた結論は、資料等から導き出された根拠を踏まえたものとなるように指導する。
- 結論を論述・レポートなどにまとめ、相互に説明したり意見を聞いたりすることにより、考察、構想をより深めさせる。
- 学習活動のまとめとしてグループやクラスでプレゼンテーションの場面を設定する。

#### 【学習の振り返り】<sup>11</sup>

- 主題（テーマ）の設定時に発問した問いを改めて発問するなどして、生徒が自らの探究活動を振り返ることができるよう指導し、学んだことの意味に気付くようにする。
- 生徒が振り返りの中で新たな課題（問い）を考察し、次の学習に主体的につなげることができるよう指導する。

以上のような指導の工夫により、この中項目のねらいを実現することができるよう、生徒が充実した探究活動を行えるように適切な支援を行う。

## 7 単元目標

- (1) 課題の追究や解決のために、適切かつ効果的に諸資料を活用し、歴史的経緯を踏まえて、主題（テーマ）に関わる現代的な諸課題を理解する。〔知識及び技能〕
- (2) 主題（テーマ）に関わる現代的な諸課題の形成に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、日本とその他の国や地域の動向を比較し相互に関連付けたり、現代的な諸課題を展望したりするなどして、主題（テーマ）について多面的・多角的に考察、構想し、表現する。〔思考力、判断力、表現力等〕
- (3) 主題（テーマ）に関わる現代的な諸課題について、持続可能な社会の実現を視野に、主体的に探究しようとする態度を養う。〔学びに向かう力、人間性等〕

<sup>8</sup> 高等学校学習指導要領解説地理歴史科編 p. 183

<sup>9</sup> 高等学校学習指導要領解説地理歴史科編 pp. 364～365

<sup>10</sup> 高等学校学習指導要領解説地理歴史科編 pp. 183～184

<sup>11</sup> 高等学校学習指導要領解説地理歴史科編 p. 184

## 8 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①主題（テーマ）に関わる現代的な諸課題について、その形成に関わる歴史的経緯を理解している。</p> <p>②諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べ収集し、読み取ったり、まとめたりしている。</p>	<p>主題（テーマ）に関わる現代的な諸課題の形成に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、日本とその他の国や地域の動向を比較し相互に関連付けたり、現代的な諸課題を展望したりするなどして、主題について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。</p>	<p>主題（テーマ）に関わる現代的な諸課題について、持続可能な社会の実現を視野に、主体的に探究している。</p>

## 9 単元の指導と評価の計画

※主題（テーマ）の設定の準備・心構えとして、主題（テーマ）を設定して探究を行う旨を予告し、次時まででこれまでの学習内容を振り返っておくよう事前指導を行う。

時	過程	学習活動	評価			
			知技	思判表	主	評価方法
1	主題（テーマ）の設定と学習上の課題（問い）の表現	これまでの授業を振り返り、教員や他の生徒等と対話するとともに、各自の興味・関心に基づいて自ら主題（テーマ）を設定したり、学習上の課題（問い）を表現したりする。		○	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシート等の記述分析</li> <li>行動観察</li> <li>ポートフォリオ評価</li> </ul>
2	諸資料の収集	「五つの観点」★を踏まえて、複数の多様な諸資料を収集する。	○			<ul style="list-style-type: none"> <li>ノート等の記述分析</li> </ul>
3	収集した諸資料の整理・分析及び考察・構想	収集した諸資料を社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせるとともに史料批判を適切に行って多面的・多角的に分析し、自らの考えを客観的な根拠に基づいて表現する。		◎		<ul style="list-style-type: none"> <li>ノート等の記述分析</li> <li>行動観察</li> </ul>
4	レポート・発表資料等の作成	考察・構想した内容についてレポートや発表用資料などにまとめる。	○	◎		<ul style="list-style-type: none"> <li>ノート等の記述分析</li> </ul>
5	発表・議論	考察・構想した内容について他の生徒等に発表したり、他の生徒等と意見交換したりする。	○	◎		<ul style="list-style-type: none"> <li>パフォーマンス評価（論述・レポート・発表用資料及びプレゼンテーション）</li> </ul>
6	振り返り	探究した過程を振り返り、学んだことの意味や新たな課題（問い）を考察し、次の学習につなげる。			◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己評価及び相互評価（振り返りシート）</li> <li>ポートフォリオ評価</li> </ul>

★「五つの観点」…「自由・制限」「平等・格差」「開発・保全」「統合・分化」「対立・協調」（巻末資料「学習指導要領に示された「五つの観点」の辞書的意味例」参照）

## 10 学習の計画

【第1時】 主題（テーマ）の設定 （巻末資料「主題（テーマ）設定ワークシート例」参照）

過程	学習内容	生徒の学習活動	指導上の留意点	評価規準 〔観点〕（評価方法）
導入 (15分)	主題（テーマ）設定の注意点	●主題（テーマ）を設定する際の注意点について理解する。	○主題（テーマ）の設定、課題（問い）の表現に際しては、これまでの授業を振り返り、教員や他の生徒等と対話するとともに、各自の興味・関心に基づいて自ら選択・判断することが大切であることを伝える。	
展開 (30分)	「歴史総合」の振り返り  主題（テーマ）の設定	●一年間の学習の中で最も興味をもった単元の内容を要約し、疑問点や探究したいことを整理する。その際、教師に質問したり、確認したりする。 ●疑問点や探究したいことの中から現代的な諸課題とつながるものを絞り込み、自分の探究する主題（テーマ）を一つ決めるとともに、学習上の課題（問い）を表現し、その解や展望等について予想（仮説）を立てる。 ●3～4人のグループで各自が探究したい主題（テーマ）を共有する。	○これまでの「歴史総合」の学習を振り返り、主題（テーマ）の設定の手がかりはないかを問いかける。「知っていること」（既習事項）を整理させる中で、さらに「知りたいこと」＝「調べるべきこと」を見いださせる。 ○生徒の実態に応じて、主題（テーマ）や課題（問い）の例★も示しながら、生徒自身が考え、選択・判断し表現できるよう支援する。 ○生徒が自ら設定・表現した主題（テーマ）や学習上の課題（問い）の意味や意義について考えることができるよう指導を工夫する。 例）「あなたはなぜその主題（テーマ）を設定したのか」、「その主題（テーマ）の探究はあなたにとってどのような意味をもつか」、「それはあなた以外の人々や社会にとって、どのような意味をもつか」などと発問する。	・これまでの学習を振り返り、それぞれの興味・関心・疑問に基づき、他者との対話も踏まえて自ら主題を設定している。〔思判表〕 ・現代的諸課題の形成に関する歴史的経緯について予想（仮説）を立てている。〔思判表〕 (ワークシート等の記述分析、行動観察)
まとめ (5分)	探究への見通し	●各自で決定した主題（テーマ）について、どのような資料が必要となるか考えるなど、どのように探究していくか活動についての見通しをもつ。 ●次回までに、必要な書籍・論文などの資料を準備しておく。	○主題（テーマ）の設定から、資料の収集・分析、考察・構想、発表、振り返りまでの探究の過程について、生徒自らが見通しをもつことができるようにする。 例）「どのような資料が活用できそうだろうか」、「それらの資料はどこで収集できるだろうか」などと発問する。	・探究の過程の見通しをもっている。〔主〕 (ワークシート等の記述分析、ポートフォリオ評価)

★参考 巻末資料「主題（テーマ）とその主題を学習上の課題とするための問いの例」

【第2時】 諸資料の収集 (巻末資料「資料収集のためのリンク集(例)」参照)

歴史は資料を基にして叙述されるものである。「歴史総合」の学習では、その目標において「諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける」ことが明示されているように、インターネットに偏らず、地域の図書館や学校図書館、博物館等も利用し、様々な媒体を通じて適切かつ効果的に資料収集するよう指導する。

1 辞典・辞書等で調べる 他者の話を聞く	2 テーマに関する様々な資料を収集して読む	3 テーマに関する同時代の資料・史料を読み、引用する
<ul style="list-style-type: none"> <li>・探究したい歴史事象について基礎的な情報を辞典・辞書等で確認する。</li> <li>・身近な家族・知人などから同時代の体験・経験を聞き取ることも効果的である。(オーラルヒストリー)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「五つの観点」を踏まえて、様々な媒体を通じて複数の情報を収集する。(新聞、雑誌、論文、書籍、インターネットetc…)</li> <li>・教科書会社等が提供する学習リンク集等も活用する。</li> <li>・資料の表題、出典、年代、作成者などを確認し、その信頼性を踏まえつつ、情報手段の特性や情報発信者の意図、発信過程などに留意して情報を集める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収集した書籍・論文などに記載されている引用資料や脚注を手掛かりに、同時代資料にあたってみる。</li> <li>・特にWeb上のデジタルアーカイブを活用すれば簡単にアクセスできる。</li> </ul>

(参考 「社会事象等について調べまとめる技能」<sup>12)</sup>)

【第3時】 収集した諸資料の整理・分析及び考察・構想

過程	学習内容	生徒の学習活動	指導上の留意点	評価規準 〔観点〕(評価方法)
導入	史資料への向き合い方	<ul style="list-style-type: none"> <li>●収集した情報の公正な扱い方や、史料批判の重要性について理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○扱った資料の特性を踏まえること、資料を公正に取り扱うことに配慮するよう指導する。</li> <li>○異なる価値観や対立する立場の一方に偏ることなく、事実の正確な理解に導くように留意し、史実の認識や評価に慎重を期すよう指導する。</li> </ul>	
展開	主題(テーマ)について考察・構想する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●収集した資料を種類ごとに分類したり、内容を要約したりする。</li> <li>●収集した情報について、歴史的な見方・考え方を働かせて分析し、現代的な諸課題と関連させながら主題(テーマ)について考察・構想する。</li> <li>●教師や他の生徒との対話を通じて、主題(テーマ)について多角的・多面的に考察する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自ら資料を収集・選択する力やそれを批判的に読み取って解釈し考察に生かす力、さらに資料を読み取り考察したことを年表や地図等で適切に表現する力を身に付けられるよう指導する。</li> <li>例)「その資料は設定した主題(テーマ)の探究に有効であるだろうか」などと発問する。</li> <li>○多様な資料を用い、異なった考え方を紹介するなど、歴史的な事象を一面的に取り上げたり、一つの立場からのみ理解したりすることを避け、生徒自身が諸事象の背景や意味について、社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、多面的・多角的に考察、選択・判断し、表現することができるよう指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な情報を、多角的・多面的かつ効果的に調べ収集し、読み取ったり、まとめたりしている。〔知技②〕</li> <li>・「五つの観点」を踏まえ多面的・多角的に考察・構想している。〔思判表〕(ノート等の記述分析、行動観察)</li> </ul>

<sup>12)</sup> 高等学校学習指導要領解説地理歴史科編 pp. 364～365

まとめ	主題（テーマ）について表現方法を考える。	●主題（テーマ）についてどのような形式で表現するのか見通しを立てる。	○考察、構想したことから得られた結論は、資料等から導き出された根拠を踏まえたものになっているか確認するよう指導する。 ○探究した内容を表現する方法について見通しをもたせる。例えば、結論を論述・レポートなどにまとめ、生徒同士が相互に説明し合ったり、意見交換したりする場面を設定したり、グループやクラスでプレゼンテーションの場面を設定したりするなどの工夫が考えられる。
-----	----------------------	------------------------------------	---

#### 【第4時】 レポート・発表資料等の作成

考察、構想したことから得られた結論は、資料等から導き出された根拠を踏まえたものとなるように指導を工夫する。（巻末資料「レポート作成要領（例）」参照）

#### ○レポートや発表資料作りの注意点

- ①レポート等の文字数や発表の形式、発表時間について事前に確認する。
- ②探究した過程を踏まえて表現の構成を論理的に整理する。

探究の過程		表現の構成	
主題（テーマ）の設定	※現代的な諸課題を踏まえ、 ・関心、疑問 ・背景、動機 ・意義、目的 ・予想（仮説）	序論	レポートや発表の導入 ①主題（テーマ）を選んだ背景や動機、主題（テーマ）を探究する意義や目的 ②情報収集の方法（どこで、誰から、どのように） ③主題（テーマ）の結論についての予想（仮説）
情報収集	・情報収集の方法 ・収集した情報	本論	・どのような資料を収集したのか ・収集した史資料からどのような情報やデータを得られたか ・収集した情報からどのような解釈ができるのかなど
整理・分析	・分類、要約 ・定性分析、定量分析	結論	・収集した情報をもとにしてどのような結論を得られたか。
まとめ	考察		

#### ○「伝わる」表現の工夫

- ①聞き手の立場（生徒、教師、その他）を意識する。
- ②予想される質問を想定して表現を工夫する。
- ③何度も自分で読み返したり（推敲）、他者（家族、教師等）に見てもらったりして、分かりにくい部分を修正する。

#### ○出典の表記方法 ※個人情報やプライバシー、著作権の保護に留意し、出典を明記するよう指導する。

- ・書籍：著者『書名』出版社、出版年、引用箇所
- ・論文：著者「論文タイトル」（『論文が掲載されている書籍・雑誌名』出版社）、掲載年、引用箇所
- ・Web：著者「Webサイトのタイトル」（URL、閲覧年月日）

（例）

- ・書籍：ミヒヤエル・エンデ、大島かおり訳『モモ』岩波書店、1976年、p.171。
- ・論文：古重奈央「小学校家庭科における片づけの学習の検討」（『日本教科教育学会誌』42巻、3号）、pp.55。
- ・Web：中央教育審議会「新しい時代の初等中等教育の在り方について」（[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1415877.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1415877.htm)、2021.6.21閲覧）。

【第5時】 発表・議論

過程	学習内容	生徒の学習活動	指導上の留意点	評価規準 〔観点〕(評価方法)
導入 (5分)	発表要領の確認	●発表方法、発表時間など表現させる条件を理解し、見通しを立てる。	○発表方法、発表時間など表現させる条件について示し、見通しを立てさせる。	
展開 (40分)	探究した成果の発表と意見交換	●各自で作成した論述・レポート・発表用資料などを用い、相互に発表し、意見を聞く。 ※5名程度の小グループで発表・質疑(1人3分程度) ↓ グループの中から特に優れたものを選び、全体で発表・質疑(1人3分程度)	○探究した内容を相互に説明したり意見を聞いたりすることにより、考察、構想をより深めるよう指導する。 ○他にも、発表し合ったことを基に、ディベートやディスカッションなどの生徒同士が議論する場面を設定したするなどの工夫も考えられる。	・設定した主題(テーマ)に関わる現代的な諸課題について、その形成に関わる歴史的経緯を理解している。〔知技①〕 ・諸課題の形成に関わる様々な情報を、多角的・多面的かつ効果的にまとめている。〔知技②〕 ・考察・構想したことを効果的に説明したり、議論したりしている。〔思判表〕 (論述・レポート・発表用資料及びプレゼンテーション)
まとめ (5分)	振り返り	●振り返りシート等を使って自己評価をする。	○生徒が自らの探究活動を振り返ることができるよう指導を工夫し、学んだことの意味に気付くようにする。	

【第6時】 振り返り

過程	学習内容	生徒の学習活動	指導上の留意点	評価規準 〔観点〕(評価方法)
導入	振り返りの視点	●探究の過程を振り返る視点を理解する。	○振り返りの視点を明らかにすることで、焦点化された自己分析や内省に取り組めるよう指導する。	
展開	探究した成果の発表と意見交換	●振り返りシート等を使って本単元の活動と一年間の学習を振り返り、自己の学習の成果と課題について分析する。 ●ペアやグループに分かれ、各自の振り返りを共有し、相互評価を行う。	○生徒が自らの探究活動を振り返り、学んだことの意味に気付いたり、新たな課題(問い)を考察し、次の学習に主体的につながりすることができるよう指導を工夫する。例)「あなたはなぜその主題を設定したのか」、「その主題はあなたにとってどのような価値があるのか」、「それはあなた以外の人々にとって、どのような意味をもつ探究なのか」などと改めて発問する。 ○相互評価や他の生徒からのアドバイスによって、自分の学習状況に気付いたり、探究したことの理解を深めたり、表現をよりよく改善したりするなど、自己の学習を調整できるように指導する。	・学習の内容の深まりによる問いや表現の見直しをするなど、粘り強く自己の学習を調整し深めようとしている。〔主〕 (振り返りシート等)
まとめ	振り返り	●探究科目(日本史探究等)の学習に向けて展望をもつ。	○歴史総合の学びを振り返り、身に付けた資質・能力を基に、探究科目の学習への意欲を高めるように指導する。	

(参考 巻末資料「単元の評価ルーブリック例」参照)

## 《 卷末資料 》

### ● 主題（テーマ）設定ワークシート例

#### 主題（テーマ）設定ワークシート

◆ 「歴史総合」の学習を振り返り、主題（テーマ）を決めよう

最も興味をもった単元の標題	単元の内容を要約しよう	疑問点やもっと知りたいこと
	➡	➡

他者との対話で気付いたこと・考えたこと		
対話した人（                    ）	対話した人（                    ）	対話した人（                    ）

📌 探究する主題 （テーマ）	
★ 主題（テーマ）に関連する現代的諸課題のキーワード	
★ 設定した主題（テーマ）に基づく問い	
★ 上記の問いの解や展望等を予想しよう（仮説を立てよう）	

📌 表現方法	レポート ・ ポスター発表 ・ プレゼンテーション ・ その他（                    ）
--------	---

◆ 探究スケジュール

日付・期間	活動内容

◆ 研究するために必要な書籍・論文・史資料などの見通し

## ★主題（テーマ）とその主題を学習上の課題とするための問いの例

（本資料は生徒に配付することを想定したのではなく、生徒の探究を支援する際の参考資料である。）

※現代の世界やその中の日本が直面する諸課題が、様々な背景をもち、多様な主体や要素が複雑に絡まり合いながら形成されてきたことに気付かせるような指導の工夫が必要である。

【学習指導要領解説より】（一部改変）<sup>13</sup>

主題（テーマ）	主題を学習上の課題とするための問いの例
環境問題とその対策の歴史的経緯	「世界（〇〇地域）の環境問題はどのような歴史的経緯で深刻化し、どのような対策が取り組まれてきたのだろうか。」
立憲体制の歴史的経緯とその広まりの特色	「立憲体制はどのような歴史的経緯で世界に広まり、各国ごとにどのような特色の違いがあるのだろうか。」
選挙制度の変容と課題	「人々の政治参加を可能にする選挙制度はどのように変化し、現在の日本や各国の政治参加の実態はどのような課題に直面しているのだろうか。」
戦争防止に向けた国際的取組の歴史的経緯と課題	「戦争を防止する国際的な取組は近現代の歴史においてどのように進展し、それぞれの段階でどのような課題に直面してきたのだろうか。」
グローバル化の進展とその影響	「近現代の歴史においてグローバル化の進展は、私たちの生活にどのような影響を与えてきたのだろうか、また、今後私たちはグローバル化に対してどのように向き合うべきなのだろうか。」

【その他】

主題（テーマ）	主題を学習上の課題とするための問いの例
地域統合の歴史的経緯と影響や今後の展望	「世界（〇〇地域）の■はどのような歴史的経緯で進められ、どのような影響を及ぼしてきたのだろうか。また今後どのような展開が予想されるだろうか。」 【具体例】EU統合、TPP体制、開かれたインド・太平洋構想、日米豪印の「クワッド」、自由貿易協定、経済連携協定など
経済格差の歴史的背景と解決に向けた展望	「世界（〇〇地域）の■の格差はどのような歴史的経緯で発生し、どのような解決策が取り組まれてきたのだろうか。また今後どのような対応が必要だろうか。」 【具体例】先進国と発展途上国、資源を持てる国と持たざる国、南北問題、南南問題、富裕層と貧困層、正規雇用と非正規雇用など
経済システムの変容と今後の展望	「世界（〇〇地域・〇〇国）の■はどのような歴史的経緯で構築され、各国ごとにどのような特色の違いがあるのだろうか。また今後どのようなあり方が求められるだろうか。」 【具体例】資本主義、社会主義、共産主義、社会主義市場経済、修正資本主義、新自由主義、監視資本主義、フェアトレードなど
人権問題の歴史的背景と解決に向けた展望	「世界（〇〇地域）の■はどのような歴史的経緯で発生し、どのような解決策が取り組まれてきたのだろうか。また今後どのような対応が必要だろうか。」 【具体例】人種差別（Black Lives Matter 他）、民族差別、女性差別（#Me Too 運動他）、障害者差別（優生保護法他）、性的マイノリティへの差別など
人的移動や文化交流の歴史的経緯とその影響	「世界（〇〇地域）の■はどのような歴史的経緯で始まり、どのような影響を及ぼしてきたのだろうか。また今後どのような展開が予想されるだろうか。」 【具体例】華僑、ヒスパニック、日系人、オリンピック、万国博覧会など
テクノロジーの発展とその影響	「■はどのように発展し、どのような影響を与えてきたのだろうか。また、今後私たちはそれらに対してどのように向き合うべきなのだろうか。」 【具体例】AI、自動運転、SNS、生殖医療、臓器移植、クローン技術、遺伝子操作、宇宙開発、深海開発、再生可能エネルギー、原子力発電など

<sup>13</sup> 高等学校学習指導要領解説地理歴史科編 pp. 184～185

## ●学習指導要領に示された「五つの観点」の辞書的意味例

### 観点①

自由	制限
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ある行動の実現に当たって外的障害や拘束のないこと（百科事典マイペディア）</li> <li>・王や政府の権力、社会の圧力からの支配、強制、拘束をうけずに、自己の権利を執行することや、他からの拘束をうけずに、自分の意志で行動を選択できること。（精選版 日本国語大辞典）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ある限度や範囲から出ないようにおさえること。（精選版 日本国語大辞典）</li> </ul>

### 観点②

平等	格差
<p>個人間に、あるいは集団間に、なんらの差別もない状態をいう。たとえば、法の下での平等、両性の平等、国家間の平等などがその例。（日本大百科全書ニッポニカ）</p>	<p>資格・等級・価格などの違い。差。特に、所得・資産面での富裕層と貧困層の両極化と、世代を超えた階層の固定化が進むこと。（デジタル大辞泉「格差」及び「格差社会」）</p>

### 観点③

開発	保全
<p>土地・鉱産物・水力などの天然資源を活用して、農場・工場・住宅などをつくり、その地域の産業や交通を盛んにすること。新しい技術や製品を実用化すること。（デジタル大辞泉）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護して安全であるようにすること。（デジタル大辞泉）</li> <li>・環境保全とは、事業者等の事業活動により環境に加えられる影響で、環境保全上の支障の原因となるおそれのある環境負荷の低減のための取組（環境省「環境保全の定義」より）<sup>14</sup></li> </ul>

### 観点④

統合	分化
<p>広義には、複数の諸要素が一定の方式に従って相互に結合し、秩序とまとまりをもった全体を形成する作用。狭義には、利害や見解の対立を調整して、社会の秩序を維持する作用。（世界大百科事典 第2版。一部改変）</p>	<p>単一なものが進歩・発展するにつれて複雑に分かれていくこと。細分化。社会事象が単純なものから複雑なものへと分かれ、組織などが分岐発展すること。（デジタル大辞泉）</p>

### 観点⑤

対立	協調
<p>二つのものが反対の立場に立つこと。また、二つのものが互いに譲らないで張り合うこと。（デジタル大辞泉）</p>	<p>互いに協力し合うこと。特に、利害や立場などの異なるものどうしが協力し合うこと。（デジタル大辞泉）</p>

※「平成 30 年改訂の高等学校学習指導要領に関する Q & A（地理歴史に関すること）」の問 19 への回答において、「この五つの観点は、あくまでも例なので、それ以外の枠組みを活用することも考えられます。」<sup>15</sup>と示されているように、上記五つ以外の枠組みを活用することも可能である。よって、例えば「自立と依存」「競争と協力」「同化と個性化」「普遍と特殊」「公正と効率」「成長と停滞」「秩序と混沌」「多様性と均質性」「多角化と単一化」「集権と分権」「文明と野蛮」「民主と専制」「疎外と受容」なども考えられる。

<sup>14</sup> 環境省「3 環境保全の定義」（<https://www.env.go.jp/policy/kaikei/plan/chapter3.htm>、2026. 2. 13 閲覧）

<sup>15</sup> 文部科学省「平成 30 年改訂の高等学校学習指導要領に関する Q & A（地理歴史に関すること）」（[https://www.mext.g.jp/a\\_menu/shotou/new-cs/qa/1422369.htm](https://www.mext.g.jp/a_menu/shotou/new-cs/qa/1422369.htm)、2026. 2. 13 閲覧）

## ●レポート作成要領（例）

### 主題（テーマ）レポートの作成要領

- 1 提出方法： Google Forms
- 2 提出期限： ●月●日（●）
- 3 作成条件： 次の①～④を満たすこと。

①文量： 500字以上600字以内

②以下の「社会的事象の歴史的な見方・考え方」を働かせ、現代の世界や日本に存在する様々な課題に関する主題（テーマ）を設定し、疑問形の課題（問い）形式で設定する。

社会的事象を時期、推移などに着目して捉え、類似や差異などを明確にしたり事象同士を因果関係などで関連付けたりすること。

（例えば・・・）

○時系列に関わる課題（問い）【時期や年代】【過去の理解】

「■■はいつの出来事だろうか、同じ時期に他の地域ではどのようなことが起こっていたのだろうか」

「■■はどのような経緯で起こったのだろうか」

「当時の人々はなぜそのような選択をしたのだろうか（現代とはどのような異なる時代背景があったと考えられるだろうか）」

○諸事象の推移に関わる課題（問い）【変化と継続】【類似と差異】

「■■で何を換えようとしたのだろうか、何が変わったのだろうか、何が変わらなかったのだろうか」

「■■や□□の変化には、どのような違いがあるだろうか」

○諸事象の比較に関わる課題（問い）【意味や意義と特色（特徴）】

「■■と□□を比較すると、どのような共通点と相違点を見いだすことができるだろうか」

→「その違いが生じたのはなぜだろうか」「共通点に注目すると、どのような傾向が見いだせるだろうか」

「■■は、当時どのような意味をもっていたのだろうか」

「■■は、違う立場から考えると、どのような意味があったと考えられるだろうか」

○事象相互のつながりに関わる課題（問い）【背景や原因】【影響や結果】

「なぜ、■■は起こったのだろうか。■■の背景にはどのような状況が存在したのだろうか」

「同じ時期に共通する特徴をもった事象が複数起こったのはなぜだろうか」

「■■の結果、どのような変化が生じたのだろうか」

「■■は、社会全体にどのような影響を及ぼしただろうか」

○現在とのつながりに関わる課題（問い）【歴史と現在】【歴史的な見通し、展望】【自己との関わり】

「■■と類似した現代の事象は何だろうか。現在の事象と、どのような点が関連しているのだろうか」

「どのようなことが現在につながる変化の要因として考えられるだろうか」

「■■は、後の人々にどのような考えや課題をもたらすと考えられるか」

「（現在の）■■は、過去の類似の事例を参考にすると、その後、どのような展開の可能性があると考えられるか」

「（現在の）■■は、この後、どのような展開が望ましいと考えるか、それが実現されるためには、過去の事例を踏まえると、どのようなことが必要なだろうか」

③「五つの観点」に示された対立する二つの視点の両方に触れる

④根拠とする資料は一つのものに依拠することなく、**複数の**資料を調べ、まとめること

#### 4 出典の表記

書籍：著者『書名』出版社、出版年、引用箇所

論文：著者「論文タイトル」（『論文が掲載されている本・雑誌名』出版社）、掲載年、引用箇所

Web：著者「Webサイトのタイトル」（URL、閲覧年月日）

（例）

・書籍：ミヒャエル・エンデ、大島かおり訳『モモ』岩波書店、1976年、p.171。

・論文：古重奈央「小学校家庭科における片づけの学習の検討」（『日本教科教育学会誌』42巻、3号）、pp.55。

・Web：中央教育審議会「新しい時代の初等中等教育の在り方について」（[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shin/gi/chukyo/chukyo0/toushin/1415877.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shin/gi/chukyo/chukyo0/toushin/1415877.htm) 最終アクセス 令和3年6月21日）。

## ●資料収集のためのリンク集（例）

### 辞典・辞書で調べる

- ◆ジャパンナレッジ Lib <https://japanknowledge.com/library/?1>  
国史大辞典、日本人名辞典、世界人名辞典など 70 以上の辞事典、叢書、雑誌が検索できる国内最大級の辞書・事典サイト。
- ◆コトバンク <https://kotobank.jp/>  
世界大百科事典、日本大百科全書（ニッポニカ）、故事成語を知る辞典など、日本の出版社が提供する辞書・百科事典や、様々な分野の企業が提供する用語集・データベースを横断検索できるサービス。
- ◆Wikipedia <https://ja.wikipedia.org/>  
「誰もが無料で自由に編集に参加できる」オンライン上の百科事典。様々な情報が多く、人の手で日々追加され、項目の数は圧倒的である。一方で、誰でも編集することができるため、誤りや古い情報が書かれていることもある。Wikipedia の情報をうのみにすることなく、他の百科事典や辞典、書籍などで確認することが必要。

### 本を探す

- ◆国立国会図書館サーチ <https://iss.ndl.go.jp/>  
国立国会図書館をはじめ、全国の公共・大学・専門図書館や学術研究機関等が提供する資料、デジタルコンテンツを統合的に検索できる「知のアクセスポイント」。
- ◆CiNii Books <https://ci.nii.ac.jp/books/>  
全国の大学図書館等約 1,300 館が所蔵する約 1,300 万件（のべ 1 億冊以上）の本（図書や雑誌等）の情報や、約 180 万件の著者の情報を検索することができるサービス。
- ◆その他、地域の公共図書館・学校図書館

### 論文を探す

- ◆学術情報ナビゲータ CiNii（サイニイ） <https://ci.nii.ac.jp/ja>  
国立情報学研究所（N I I）が提供する、論文、図書・雑誌や博士論文などの学術情報で検索できるデータベース・サービス。CiNii Artricles は論文、CiNii Books は大学図書館の蔵書を検索できる。PDF で公開されている論文は、すぐに読むことができる。
- ◆科学技術情報発信・流通総合システム J-STAGE <https://www.jstage.jst.go.jp/browse/-char/ja>  
国立研究開発法人科学技術振興機構（J S T）が運営する電子ジャーナルプラットフォーム。現在、国内の 1,500 を超える発行機関が、3,000 誌以上のジャーナルや会議録等の刊行物を、P C やタブレット、スマートフォンを利用して、世界中から誰もが閲覧できる。
- ◆Google Scholar～巨人の肩の上に立つ <https://scholar.google.co.jp/schhp?hl=ja>  
学術専門誌、論文、書籍、要約など、さまざまな分野の学術資料を検索できる。

### 原典資料を探す

<史資料がテキスト化されているもの>

- ◆神戸大学附属図書館デジタルアーカイブ新聞記事文庫 <https://da.lib.kobe-u.ac.jp/da/np/>  
神戸大学経済経営研究所によって作成された明治末から昭和 45 年までの新聞切抜資料。記事数約 50 万件の内、約 30,000 コマ（22,000 記事）がインターネット上で閲覧可能。
- ◆国会会議録検索システム <https://kokkai.ndl.go.jp/#/>  
第 1 回国会（昭和 22 年 5 月）からの本会議・委員会の会議録を、テキスト又は画像で閲覧できる。

## <史資料が画像のみでテキスト化されていないもの>

### ◆国立公文書館デジタルアーカイブ <https://www.digital.archives.go.jp/>

インターネットを通じて、「いつでも、どこでも、だれでも、自由に、無料で」、館所蔵の特定歴史公文書等の目録情報の検索、公文書や重要文化財等のデジタル画像等の閲覧、印刷、ダウンロードが可能なインターネットサービス。

### ◆アジア歴史資料センター <https://www.jacar.go.jp/>

国立公文書館が運営する、インターネットを通じて、国の機関が保管する近現代の我が国とアジア近隣諸国等との関係に関わる歴史資料として重要な、我が国の公文書及びその他の記録をオンラインで提供する電子資料センター。

### ◆国立国会図書館デジタルコレクション（国立国会図書館） <https://dl.ndl.go.jp/>

国立国会図書館で収集・保存している江戸時代以前の和古書や清代以前の漢籍、1968（昭和43）年までに国立国会図書館が受け入れた戦前期・戦後期刊行図書、議会資料、法令資料、児童書、震災・災害関係資料のうち、著作権処理が完了した資料を見ることができる。

### ◆外交史料館日本外交文書デジタルコレクション <https://www.mofa.go.jp/mofaj/annai/honsho/shiryo/archives/mokuji.html>

インターネットを通じて、外務省編纂「日本外交文書」のデジタル画像および目次情報を提供。

### ◆防衛研究所戦史資料室戦史史料・戦史叢書検索 [http://www.nids.mod.go.jp/military\\_history\\_search/](http://www.nids.mod.go.jp/military_history_search/)

防衛研究所で管理する戦史史料に加えて、防衛研究所（現：防衛研究所）が編さんし1966（昭和41）年から1980（昭和55）年にかけて朝雲新聞社から刊行された「戦史叢書」を検索し、電子データを閲覧することができる。

### ◆データベースれきはく [https://www.rekihaku.ac.jp/education\\_research/gallery/database/index.html](https://www.rekihaku.ac.jp/education_research/gallery/database/index.html)

国立歴史民俗博物館が運営する、日本の歴史・文化の研究に資する国内の様々なデータベースを、学術調査・研究を目的とする方に広く提供する。

### ◆文化遺産データベース <https://bunka.nii.ac.jp/db/>

文化庁と国立情報学研究所の共同で運営する、国宝、重要文化財など国指定文化財等をはじめとした文化遺産に関するデータを集めたものです。写真画像のない作品も含め、文化遺産オンラインに収録されたすべてのデータを検索・閲覧できる文化財のポータルサイト。

●単元の評価ルーブリック例

尺度 観点	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ
知識 技能	設定した主題（テーマ）に関わる。現代的な諸課題について、その形成に関わる歴史的経緯を理解しているとともに、 <b>b</b> 多様な主体が作成するなどした諸資料から、その諸課題の形成に関わる多面的な情報を、 <b>。</b> 「五つの観点」*1に示された二つの要素を踏まえて効果的に調べ収集して、読み取り、まとめている。	設定した主題（テーマ）に関わる。現代的な諸課題について、その形成に関わる歴史的経緯をおおむね理解しているとともに、 <b>b</b> 諸資料からその諸課題の形成に関わる様々な情報を、 <b>。</b> 「五つの観点」に示された二つの要素のうち、いずれか一方を踏まえて効果的に調べ収集して、読み取り、まとめている。 【Ⅲとの違い】 <b>a</b> 歴史的経緯をおおむね理解している。 <b>b</b> 複数の資料を調べている。 <b>c</b> 「五つの観点」の一つのみを踏まえて調べている。	設定した主題（テーマ）に関わる。現代的な諸課題について、その形成に関わる歴史的経緯の理解が不十分であるが、 <b>b</b> 資料からその諸課題の形成に関わる様々な情報を、 <b>。</b> 「五つの観点」に示された二つの要素のうち、いずれか一方を踏まえてその諸課題の形成に関わる情報を調べ収集し、読み取り、まとめようとしている。 【Ⅱとの違い】 <b>a</b> 歴史的経緯の理解が不十分である。 <b>b</b> 複数の資料を調べていない。 <b>c</b> 「五つの観点」の一つのみを踏まえて調べているが、取舍選択や整理が不十分。
思考 判断 表現	これまでの学習を踏まえ設定した現代諸課題に関する主題（テーマ）について、 <b>d</b> 社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせてその諸課題の形成に関する歴史的経緯や、その結果や影響などに着目したり、日本とその他の国や地域の動向を比較し相互に関連付けたりして、 <b>。</b> 「五つの観点」に示された二つの要素のうち、いずれか一方を踏まえて多面的・多角的な考察をしたり、その諸課題の歴史的経緯や今後の展望について予想（仮説）を立てて構想したりするとともに、 <b>f</b> 考察・構想したことを説明したり、それを基に議論したりして考えを深めている。	これまでの学習を踏まえ設定した現代諸課題に関する主題（テーマ）について、 <b>d</b> 社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせてその諸課題の形成に関する歴史的経緯や、その結果や影響などに着目したり、日本とその他の国や地域の動向を比較し相互に関連付けたりして、 <b>。</b> 「五つの観点」に示された二つの要素のうち、いずれか一方を踏まえて考察したり、その諸課題の歴史的経緯や今後の展望について予想（仮説）を立てて構想したりするとともに、 <b>f</b> 考察・構想したことを説明したり、それを基に議論したりしている。 【Ⅲとの違い】 <b>d</b> 見方・考え方を働かせている。 <b>e</b> 「五つの観点」のひとつのみ・構想しようとしているが不十分。 <b>f</b> 議論はしているが、考えは深まってはいない。	これまでの学習を踏まえ設定した現代諸課題に関する主題（テーマ）について、 <b>d</b> 社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせてその諸課題の形成に関する歴史的経緯や、その結果や影響などに着目し、 <b>。</b> 「五つの観点」に示された二つの要素のうち、いずれか一方を踏まえて考察したり、その諸課題の歴史的経緯について構想しようとしていたりするとともに、 <b>f</b> 考察・構想したことを説明している。 【Ⅱとの違い】 <b>d</b> 働かせているが他国・他地域との比較・関連付けができていない。 <b>e</b> ひとつのみ・予想（仮説）がなく今後の展望について構想していない。 <b>f</b> 説明しているが議論はできていない。
主体的 に学習 に取り組む 態度	主題（テーマ）に関わる現代的な諸課題について、 <b>g</b> 持続可能な社会の実現を視野に、これまでの学習を振り返り、 <b>h</b> それぞれの興味・関心・疑問に基づき、他者との対話を踏まえて自ら主題（テーマ）を設定し、 <b>i</b> 学習過程の見通しをもつとともに学習方略を調整しながら、 <b>j</b> 粘り強く探究しようとしている。	主題（テーマ）に関わる現代的な諸課題について、これまでの学習を振り返り、 <b>h</b> それぞれの興味・関心・疑問に基づき、他者との対話を踏まえて自ら主題（テーマ）を設定し、 <b>j</b> 粘り強く探究しようとしている。 【Ⅲとの違い】 <b>g</b> 持続可能な社会の実現を視野に探究できていない。 <b>i</b> 学習過程の見通しをもつことや学習方略の調整が不十分である。	主題（テーマ）に関わる現代的な諸課題について、これまでの学習を振り返り、 <b>g</b> 他者との対話も踏まえて主題（テーマ）を設定し、 <b>j</b> 探究しようとしている。 【Ⅱとの違い】 <b>g</b> 持続可能な社会の実現を視野に探究できていない。 <b>h</b> 主題が教師の例示したものであるなど、自分で設定できていない。 <b>i</b> 学習過程の見通しがもてず学習方略の調整ができていない。 <b>j</b> 探究しようとしているが主体性に欠ける。

\*1 「五つの観点」…「自由・制限」「平等・格差」「開発・保全」「統合・分化」「対立・協調」

\*2 他者とは担当教諭、クラスメートなどの学校内の他者に限らず、家族、地域の人びと、博物館・図書館等の職員、ICT等によって接続でき得る企業人・研究者等の学校外の他者を含めた広く多様な立場の人びとを指す。